

科 目	必・選	担 当 教 員	学年・学科	単位数	授 業 形 態							
音楽 Music	必	満澤由美	1年生 (各学科共通)	1	半期 週2時間							
授業概要	音楽を通して、様々な考え方、ものの見方、表現方法、楽しみ方を学ぶ											
到達目標	個人の能力を生かし、皆と協力しながら創りあげる喜びを味わわせる 発表することによって、表現力・企画・構成力を培い、鑑賞することによって芸術性を養う											
評価方法	実技試験(歌唱－20% 器楽－20%) 授業中の小テスト(30%) 自主活動、ノート及び提出物(20%) 出欠等授業態度(10%)で、評価する。											
教科書等	高校生の音楽Ⅰ(教育芸術社) プリント資料											
内 容	歌唱	鑑賞	器楽	理論	学習・教育目標							
第 1 週	校歌の練習	声の成り立ち	オリエンテーション	・基礎知識 小テスト								
第 2 週	「翼を下さい」等 季節を歌う	声の仕組み 呼吸法 さまざまな発声法	箏の全般説明	・音符の長さリズムについて								
第 3 週	原語に歌詞で歌う	オペラ	リコーダー	・リズム打ちの練習								
第 4 週	0 sole mio(伊語) ダニーボーイ (英)	ミュージカル 日本の伝統芸能	さくら 箏 さくら {1}	・リズム打ちの練習								
第 5 週	親しみやすい曲を 合唱する	箏の様々な奏法	箏 さくら (2)	・リズム打ちの練習								
第 6 週	(1) 世界にひとつだけの花	バロックから現代 までの器楽曲 (1)	箏 さくら {2}	・基礎的な理論								
第 7 週	(2) なごり雪	個人指導 (2)	箏 さくら テスト	・楽典と音楽用語について								
第 8 週	忘れてはならない日本の歌	(3)	ミュージックベル ジングルベル									
第 9 週	歌唱テスト曲「喜びの歌」練習 (独語)	グループ活動	ミュージックベル	・基礎的な理論についてのプリント								
第10週	歌唱テスト曲「喜びの歌」練習	「高専サテライトスタジオ」について	喜びの歌	・楽典と音楽用語について								
第11週	「喜びの歌」及びベートーヴェンについて	グループ分け	ミュージックベル We wish you～									
第12週	「喜びの歌」個人指導	準備										
第13週	「喜びの歌」歌唱テスト (暗譜)			・まとめ								
第14週		サテライト発表1										
第15週		サテライト発表2										
(特記事項)		JABEEとの関連										
		JABEE	a	b	c	d1	d2a)d)	d2b)c)	e	f	g	h
		本校の学習 ・教育目標	A	A	C-1	C-1	C-2	B	B	D	C-3	B

1. 合格ラインについて、特に記載の無いものは、60点以上を合格とします。

2. 定期試験について、特に記載の無いものは、評価配分を均等とします。(【例】年4回定期試験を実施した場合の各定期試験の評価配分は、特に記載の無いものは、25%ずつとなります。)

音楽 ガイダンス

音楽の幅広い活動、中でも歌唱や器楽の技能の習得過程や、ハーモニーを作り出すために必要な仲間とのコミュニケーションを通して、「感動体験の共有」を育み、広げていくことを目標にしている。「音楽」に対して「集中して、真剣に、取り組むこと」から生まれる「感動」を体験してもらいたい。

[歌 唱]

第1～4週

声を出す、歌うということの基本的なことを考えさせる。まず校歌をおぼえる。
小中で習った「翼をください」を、高専バージョン（視点を変えて）歌う。
O sole mio(イタリア語) ダニボーイ(英語)を原語で挑戦。

第5～7週

クラスで声を出すことに慣れた段階で、親しみやすい合唱曲（世界にひとつだけの花、なごり雪等）に取り組む。

第8週

「忘れてはならない日本のうた」を取り上げ、言葉の意味を考え昔の生活観を探る。

第9～14週

「喜びの歌」を練習し14週目に試験する。ベートーヴェンの生涯や、その他の彼の作品を紹介する。ドイツ語の特徴や歌詞の意味を理解し、暗譜（歌詞を暗記）する。

[鑑 賞]

歌唱や器楽に関連性の高い作品を取り上げる。「さまざまな発声法」「オペラ」「ミュージカル」「日本の音楽」「バロックから現代までのクラシック音楽の流れ」など、ドキュメンタリーなども交え「聴く」ことに興味をもたせたい。

第9週～15週

「高専サテライトスタジオ」と称するディスクジョッキー（自主活動）を体験させる。
グループを組み、自分たちの推薦する曲をいかに聴衆の心に届けられるかを企画し、最終時に実施する。全員で評価する。

[器 楽]

第2～7週

箏の楽器について取り扱いの注意などを説明。「さくら」の練習の取り掛かる。さまざまな技法を覚えさせ、テストを（一人ずつ）実施する（グループで評価する）

第8～10週

ミュージックベルで、各々6～7人のグループに分かれて練習し、発表して聴き合う。

[理 論]

基礎の音楽理論や音程と音階を中心に、ピアノの鍵盤と音符の関係をおぼえる。
音符と休符の形や、その長さを理解し、手拍子によるリズム打ちを行う。